



課題対応型学習活性化セミナー (道央会場)

1月26日(金)「かでの2・7」で開催

道央会場は、石狩管内社会教育主事等研究協議会と共催で実施しました。現代的・社会的な課題解決に向けた地域住民の主体的な行動を促す学習活動を活性化するため、「コミュニティ活動で紡ぐ地域社会 ～誰もが当事者なんだから～」というテーマのもと、新たな学習スタイルの創出を目指しました。

基調講義

「地域の未来を創る住民の学び」

【講師】北海道大学大学院教育学研究院教授
宮崎隆志氏

基調講義では、学習者の主体性を引き出す学習について、次の構成でお話いただきました。

- 意識変化の理解の仕方
- 主体化に向けた意識変化の過程
…和歌山市・麦の郷の事例から
- 地域のつながりを生み出す仕組み
…箕面市・北芝の事例から
- まとめ…住民の主体としての発達と地域づくり

「意識枠組み」は日常実践によって再生産されており、その「意識枠組み」を問い返し転換するような学習の組織化が必要である

まず、和歌山市を中心とした障害者、高齢者、不登校児・ひきこもり青年への生活支援と就労支援にかかわる麦の郷(一麦会)の事例から、主体化の過程について確認しました。

- ①現状への違和感が出発点となる
- ②違和感を共感する仲間がいることで問題が共有化・意識化され、取り組む価値が確認できる
- ③経験の蓄積と振り返りが活動の意味を問うこととなるような問題解決に向けた取組が行われる
- ④意識の枠組みを問い直すことで、活動の矛盾に気づく

次に、北芝地区における地域づくりとしての部落解放運動の事例から、つながりを作る仕組みについて確認しました。

- ◎相反する二者のつながりを生む装置としての「中間地帯」
・そこで起きた摩擦が新たな課題を生み出す
→協働の可能性が広がる

学習の組織化は「つぶやき」拾いから始まること、外部の「つぶやき」を拾うことができる場としての非決定空間である「中間地帯」をつくること、そのコミュニティを主体的に動かしていくことによって、当事者が新しい自分を形成していくことを学びました。



グループワーク「内部からの意識改革」
～地域づくりの限界を超えるために～
【進行】北海道立生涯学習推進センター職員
石狩管内社会教育主事等研究協議会

基調講義をもとに、住民活動の更なる活性化を図るための方策について、グループに分かれて協議しました。課題のある組織やその課題を浮き彫りにしながら、新たなアプローチとして既存の組織や団体を内部から見つめ直すことで、方策(学習の組織化)を導き出しました。

各グループが導き出した方策

Aグループ つぶやきから広聴

「若い人達の意識を変える」ためには、まず行政自身から「広聴の在り方そのもの」を見直す。

Bグループ 温度差

温度差のある団体間の「中間地帯」を作り、「ぬるま湯」にする。穴の開いた仕切り板を使う。「かき混ぜる」。

Cグループ 当事者意識

「活動の楽しさ」を感じてもらい、「他力本願」から脱却できるように、互いに「必要性」を伝え合い、心を通わせるシステムを作る。

Dグループ 「やってあげてる」から「やってやる!!」

理念を振り返り、意見を言える場を作り、「誰もが当事者である」ということを共有する。

Eグループ 勇気・摩擦・信頼

自由発言の場を設け、あえて摩擦を起こして信頼関係を生み出す。また、委員や住民の意見を実現する(行政の腕の見せどころ)。

Fグループ 知ってもらおう

自分たちの手で、「知ってもらおう」ためのアクションを起こす。

キーワード

方策

課題対応型学習活性化セミナー（道南会場）

1月26日(金) むろらん広域センタービルで開催

道南会場は、胆振管内社会教育主事会、胆振管内教育委員会連絡協議会との共催で、「地域づくりにおける学びと気づきの大切さ」をテーマに実施しました。

基調講演をヒントにしながらグループで情報交換、協議を行うことを通して、「気づき」や「学び」を実践に移していくことの大切さを確認できた研修会となりました。

基調講義

「地域創生 知り気づきから実践の重要性
—知識を智恵へ—」

【講師】一般社団法人日本事業構想研究所
木村 俊 昭 氏



【地域づくりを考える上で大切なこと】

- ・まち全体をどのようにしたいのかを考えること。
- ・そのために誰がどのような役割を担い、どの

ように地域づくりに関わっていくことが必要なのかを考える「全体最適化」の視点を持つこと。

- ・取り組むに当たっては、自分自身が目指すまちづくりに向けてのストーリーを持つことが大切であること。

【全体最適化を図るための行政の役割】

- ①情報共有…現場に足を運び情報を共有すること。
- ②役割分担…誰にどんなことを担ってもらうのか役割分担を考えること。
- ③出番創出…その人たちの出番をつくりだすこと。
- ④事業構想…事業構想をすること。
- ⑤事業継承…その事業を継続できるようにすること。

自分がどの分野の何をどこまで明らかにし、どこからを次世代に託すのかを考え、実践することが大切である。

御自身の、公務員としての過去の経験や、現在関わりを持っている地域づくりの取組などにに基づき、具体的な事例を交えながらお話いただきました。

参加者からは、「身近な視点で分かりやすく、楽しい話だった。」「たくさんの気づきがあった。」「今後の業務に生かしたい。」などの感想がありました。



情報交換・協議

「“気づき”や“主体的な行動”を促す方策を探る」

【進行】胆振管内社会教育主事会
北海道立生涯学習推進センター職員

グループに分かれて基調講演の感想を交流した後、基調講演をヒントにしながら「住民の気づきや行動を促すには?」、「連携・協働を進めるコツは?」、「自分はどうする?」などについて、情報交換、協議を行いました。

【講演で心に残った言葉やフレーズ】

- ・部分個別最適化から全体最適化へ
- ・五感六育（知育、食育、木育、遊育、職育、健育）
- ・ストーリー
- ・人財
- ・仕事環境の改善
- ・順番を見極める
- ・現場情報
- ・感動



【住民の気づきや行動を促すには?】

- ・住民との双方向の対話が必要。
- ・体験してもらうことが必要。
- ・地域の困りごとを住民に知ってもらう。

【連携・協働を進めるコツは?】

- ・明確なビジョン、指針を持つ。
- ・団体をつなぐキーパーソンを見つける。




- ・目的や情報を共有する。

【自分はどうする?】

- ・地域や人をよく知る。
- ・住民が考える場づくりをする。
- ・事後を見据えた事業計画をする。

- ・ストーリーを考えて感動を創り出す。

最後に、グループで話し合った内容を発表しながら全体で交流し、本セミナーで得た学びや気づきを実践していくことの大切さを確認することができました。

当センターのホームページでは、各研修会の様子が分かる事業報告書のほか、 本号以外の「研修会だより」などを掲載しております。こちら是非御覧ください。

